

## 地域医療実習を終えて

私は今回、大隈半島にある肝付町にて地域医療実習を行わせていただいた。昨年に引き続き二回目の実習だったので一年生の頃よりかは充実した実習にしようという思いで肝付町へ向かった。

1日目は佐多診療所にて外来の見学をした。午前中は診察しているところを見学させていただいた。その日は胃カメラの予約が入っていたので、検査をしているところを見ることができた。胃カメラの最中は何を見ているのかわからなかった、先生が終わった後に画像を見せながら説明してくださった。どういうところを見ているのかについても教えてくださったのでイメージを掴むことができた。その次は、エコーも見せてくださった。エコーは二次元から三次元を考えないといけない点で難しいのだとおっしゃっていた。午後からは地域診断実習ということで、事務所の方々が南隅地区を案内してくださった。鹿児島本土南端の佐多岬や神川大滝公園に連れて行ってくださった。どこも景色がとてもきれいでそこにいるだけで心が浄化されるような気持ちだった。

2日目は肝属郡医師会立病院にて実習を行った。午前中は心電図から見学させていただいた。作業師さんの電極をつけるスピードがとても速かったので驚いた。次に、もの忘れ外来といって認知症の方のための外来を見学した。ここでは普通の診察とは違い、本人だけではなくその家族への対応も気を配らなければならないとおっしゃっていた。午後からは訪問診療に同行させていただいた。訪問診療を受ける方は自宅で過ごしたいという意志のもと決断しているので、その意向に沿って QOL を高めるために何ができるかが大切なのだと感じた。

3日目。この日から肝付町立病院にて実習をした。この日の午前中は外来の見学、午後からはオペの見学をした。オペでは手術を始めるまで多くの行程があり、それらを丁寧に教えてくださった。その後は看護師長さんと病棟を回った。病棟での患者と看護師のやり取りを見ていて、看護師が一番近くで患者の状態を常に把握しているのだとわかった。その信頼関係が医療には必要なのだろうと思う。

実習最終日は岸良診療所にて実習を行った。ここには地域枠を卒業された先輩でもある徳永先生に同行させていただいた。そこで診察の様子を見たり、待合室で患者さんと話をしたりした。そこで印象に残っていることは患者さんと先生の関係性だ。先生がいるから安心できる、とほとんどの方がおっしゃっていた。地域では医師が少なく、また高齢化に伴い病気も増えていく。一人が複数の病気を患うこともあるので、なんでも話せる関係を作り様々な変化に気づける環境を作ることが大切なのだと実感した。

今回の実習でも多くのことを学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができた。次に実習があるときにはわかることが増えているように普段の勉強にも力を入れたい。

「医師ともに 未来見据える うちの浦」

現地の医師が、地域の中の医師という立場からその地域をよりよくするために何ができるか考えなければならないとおっしゃっていたことが印象に残っていることから作った句。

## 離島実習～肝属郡コース～

今回は2年生と嶽崎先生と肝属郡コースを回りました。大隅半島へ行く機会というのが今まで無かったため、楽しみ半分と不安な気持ち半分でした。鴨池フェリー乗り場を出て30分ほどフェリーに乗っていました。その後車で1時間以上かけて最初の目的地である医師会病院へ行きました。そこで車を乗り換えて1時間ほどかけて佐多診療所へ向かいました。佐多診療所では主に外来見学をさせていただきました。佐多には常勤の医師が佐多診療所にいる先生ひとりのみだということでした。そのため佐多の住人はほとんど佐多診療所に来るということでした。また、外来見学をして高齢者、特に80代前後の方が多という事に気付きました。病院見学を終えた後は佐多の地域を知るために様々な観光地へ連れて行っていただきました。その中で特に本土最南端である佐多岬はとても迫力があり素晴らしかったです。夜は肝属医師会病院の方々と懇談会を開いていただきました。現場で働く医師の方とお酒を交わしたりする機会というのはなかなかないため、本音で色々な話が聞けとても良い機会になりました。2日目は肝属医師会病院での見学でした。外来見学だけでなくエコーや胃カメラなどの設備なども見せていただき、まだ学校で習ってはいないのですが実際に見ることができ貴重な体験をさせていただいたと感じました。3日目は場所を移動し肝属町立病院へ行きました。ここでの見学で特に印象に残ったのが手術見学でした。私は現在外科志望であることもあり釘付けになって見ていました。また、手術の準備などの普段テレビ等では見る事の出来ない部分まで見ることができとてもいい機会になりました。最終日は岸良診療所に行きました。そこは地域枠の卒業生である先生が週に2回診療をなさっているそうです。そこでは外来見学と患者さんとの直接話をさせていただく機会を与えてくださりました。ごちないながらではありましたが、患者さんの今の症状や先生に対する感謝の気持ちであったり、また岸良診療所まで来るのにとっても大変であるといったことであったりと様々なことを聞くことができました。医師になるにあたり患者さんとのコミュニケーションはとても大切であるのでいい経験になりました。

以上のような体験をふまえて次の俳句を詠ませてもらいました。

知りたいと 思う気持ちが 出発点

少々幼稚な表現になってしまったのですが、この離島実習を通して痛烈に感じたことがありました。それは地域を知りたいと思う気持ちがとても地域医療をするにあたってとても大切であるということです。もちろん当たり前のことで分かっていたことではあったのですが、それを肌で感じれた体験でした。それは、私は大隅半島に行ったことがなかったため、その知識などをほとんど持っていませんでした。その中で実際訪れてみて、人の良さや自然の豊かさに触れることが出来ました。そして、この地域をもっと知りたいと思うようになりました。この気持ちを忘れないようにしようと思いました。とても良い経験ができました。